

青公大生 グッズ開発探る



青い海と
森の
音楽祭

10/31-11/8

東奥日報社などをつくる青い海と森の音楽祭実行委員会と連携協定を結ぶ青森公立大学の学生が20日、西目屋村のブナコ株式会社西目屋工場で、ブナの木工品「ブナコ」の製作に挑戦し、音楽祭のグッズ開発に意欲をみせた。

学生はこれまで同実行委と会議を重ね、新たなグッズ案を披露。ブナコ商品を手がける同社が協力した。

この日訪れた学生は阿部広太郎さん（3年）、長堀里心さん

ブナコ社のスタッフ（中央）の指導を受けながらブナコの器作りに励む学生たち



（同）、山田彩惺さん（2年）、佐々木慈英さん（1年）の4人。同社の倉田昌直社長の案内で職人たちの製作現場を見学した後、ブナコの器作りに取り組んだ。学生たちは湯飲み茶わんをブナコに押し付け、手作業で丸みを帯びた形に仕上げている苦勞に触れた。

倉田社長はいす、照明、スピーカーのほか、コースターやリンゴを模した小物入れなど、多彩なブナコ商品を紹介しながら「お客さまの求めるものを考え、他と差別化できる商品を作してほしい」と伝え、学生たちは「青森らしいもの」「音楽にまつわる商品」「小さく手に取りやすいグッズ」などと構想を語った。今後、学友会メンバーで商品の方向性を決め、音楽祭公演での商品披露を目指す。
（葛西憲悟）